

## 新任挨拶



桜も散り新生活を始められた方々も、そろそろ環境に慣れてきたのではないのでしょうか？  
はじめまして4月より野毛地区センターの館長を拝命しました島浩治と申します。  
当地区センターは、私を含めて3人(自主担当主任の菅本さん、お客様ご担当の小川さん、小職島)の新顔を迎えて新たにスタートを切ることになりました。継続して活躍頂くスタッフ一同  
同様に、お付き合いのほど、よろしく願い申し上げます。

さて、私ごとで恐縮でございますが、37年勤めた前の職を役職定年を機にスパット見切りをつけ、2年間素浪人生活!その間、愛犬と戯れながら、過去に培った知識の棚卸しをしながら、地元消防団活動や地域活動のお手伝いなどを致しておりました。

自由気ままな素浪人生活も、家内からの冷たい視線に耐え切れず、ご縁があり、中区民活動支援協会の館長募集中とのお知らせに出会うことができました。

折角の機会ですので、棚卸しの際に調べたことをご紹介します。

昨今、巷では多様性(ダイバーシティ)なる言葉を良く耳にしますね。何故多様性を受け入れる社会が必要なのでしょう？

人は、生き抜くためにグループを創り協業することで生産性をあげてきました。狩猟や農業、1人でするよりは集団で行う方が効率が良いことは、ご理解いただけると思います。ただし、集団で行動することで非効率も発生します。利害調整に時間がかかったり(この点長くなるのでまた今度!)、集団の意思決定が短略的で馬鹿げた結果になることがあります。「凝集性による集団浅慮」という状況です。何か自分が求めた結果では無いけど、周りの目か気になり、時には間違っていることさえも気付かずに、賛成した経験は誰でもあることでしょうか？

その不適切な状況を回避するため、偏った思考に凝集しないよう、さまざまタイプ集めること(多様性を持った組織)で、回避し易くなることが知られています。更には、様々な知識が集積をすることで、イノベティブなことも促進されます。孟賞君の鶏鳴狗盗もダイバーシティの走りですかね？

組織が長期的に発展していくには、多様性は欠かせないものですね。

我々新採用者も中区民活動のイノベティブな生活支援を精一杯頑張ります。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

敬 具

